



43号線橋梁下拡幅工事の様相



作業員の立っているところが新たな低水護岸になる。



全量左岸寄りに流れるような仕切り堤体。



24～25日間の降雨後に仕切り堤体が切れていた。原因不明



新幹線橋梁右岸護岸復旧工事の様相



24～25日間の降雨後の状況。工事中断していた。

43号線橋梁下の工事が進み拡幅後の姿が素人目にも分かるようになって来た。現地説明板には工事後埋め戻される事になっており不審に思っていたが、11月以降に阪神高速(多分43号線)橋梁耐震化工事の作業スペース確保のため埋め戻し再度掘削する工程が組まれていると現場の作業員が教えてくれた。素人目では理解し難い計画に思える。

新幹線橋梁右岸護岸復旧工事が順調に進んでいるように見えたが、4月24～25日に少し纏まった降雨があり、43号線橋梁付近は全く降雨の影響は無く普通に工事が進められているのに、6号堰下流に右岸から左岸方向へ全量流れる堤防状に砂が積み上げられていた仕切り堤が右岸側で大きく切れて工事も中断状態だった。現地でお会いした人に「切れたのか、切ったのか分からないか」聞くと、その人も「何故こうなったのか分からない。仕切り堤の右岸側が平らにされたり、この程度の雨で切れよな工事に素人目でも妙な工事だと不審に思っていた。」と答え、更に復旧工事現場を取り囲むような区画もあって何の為の仕切り堤か理解できない。降雨量は有野99mm、その他は60～70mm程度で甲武橋水位も水防団待機水位の2.2m以下の1.6m前後の水位が数時間続いた程度なのに。